



2026年3月期 第1四半期（2025年4月～6月） 決算説明資料



株式会社MCJ

2025年8月5日

2026年3月期 第1四半期（4月～6月）における主なトピックス

業績サマリー

□ 実質ベースでの営業利益は1Qとしての過去最高を更新

- 1Q売上高、売上総利益額及び利益率が、いずれも1Qとしての過去最高を更新。高水準の利益率が継続
- 前年1Q計上の一時収益除く**実質ベース***では**営業利益も過去最高**を達成

業績に係るトピック

□ パソコン関連事業は国内PC事業の好調が継続

- 国内PC関連事業はマウス、ユニットコムが全体の増収増益（実質ベース*）を牽引
- 海外PC関連事業(1月～3月)は両社ともに期初計画通り前年同期比減益スタート

□ 総合エンターテインメント事業は前年同期比増収増益

- コロナ禍における構造改革効果と売上向上施策効果が継続
 - ネットカフェの増益基調継続に加え、24時間フィットネス事業が引き続き増益を牽引

□ 業績は期初予想を上回り推移

- 期初予想における上半期は前年同期比14%営業減益想定。1Q実績では売上高及び各利益ともに期初予想を超えて推移

その他トピックス

□ 今期スタートの新中計にて掲げる積極的な株主還元を早期に実施

- 2025年7月より総額40億円の自社株買いを実施

* 保有資産売却に係る一時収益を除くベース。詳細は次項以降をご参照ください。

第1四半期（4月～6月）連結損益計算書

前年同期比増収を達成し、売上高は1Qとして過去最高となる
利益面では売上総利益額及び利益率ともに1Qとして過去最高を更新

(百万円)	2025年3月期 第1四半期		2026年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	50,464	100.0%	52,131	100.0%	1,666	3.3%
売上原価	37,048	73.4%	38,196	73.3%	1,148	3.1%
売上総利益	13,416	26.6%	13,934	26.7%	518	3.9%
販売及び一般管理費	7,428	14.7%	8,108	15.6%	679	9.2%
営業利益	5,987	11.9%	5,826	11.2%	△ 161	△ 2.7%
経常利益	5,999	11.9%	6,073	11.6%	73	1.2%
税金等調整前 四半期純利益	5,996	11.9%	6,074	11.7%	77	1.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,303	8.5%	4,202	8.1%	△ 100	△ 2.3%

マウス及びユニットコム
が全体の増収を牽引

売上総利益額及び
利益率ともに過去最
高を達成。円安傾向
継続も高水準の利益
率を継続

人件費や広告宣伝
費といった戦略費用
増に加え、売上増に
伴う変動費用が増加
するも、売上に対する
販管費率は通常期
程度を維持

上記の結果、一時収
益の計上もありハー
ドルが高い前年同期
とほぼ同等の営業利
益を計上

経常利益以下も期
初予想比で順調に
推移

【参考資料】 一時的な要因を除いた 第1四半期（4月～6月）連結損益計算書

前年1Q計上の保有資産売却に伴う影響を除いた実質ベースでは
過去最高の営業利益を達成

(百万円)	2025年3月期 第1四半期		2026年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	48,759	100.0%	52,131	100.0%	3,371	6.9%
売上原価	36,023	73.9%	38,196	73.3%	2,172	6.0%
売上総利益	12,736	26.1%	13,934	26.7%	1,198	9.4%
販売費 及び一般管理費	7,428	15.2%	8,108	15.6%	679	9.2%
営業利益	5,307	10.9%	5,826	11.2%	518	9.8%

実質ベースでも前年同期比での増収基調は変わらず

1Qとして過去最高の売上総利益額及び利益率を達成。高水準の利益率が継続

戦略費用の増額影響あるも、対売上高比率は前年同等を維持

実質ベースでは1Qとして過去最高の営業利益額及び利益率となる

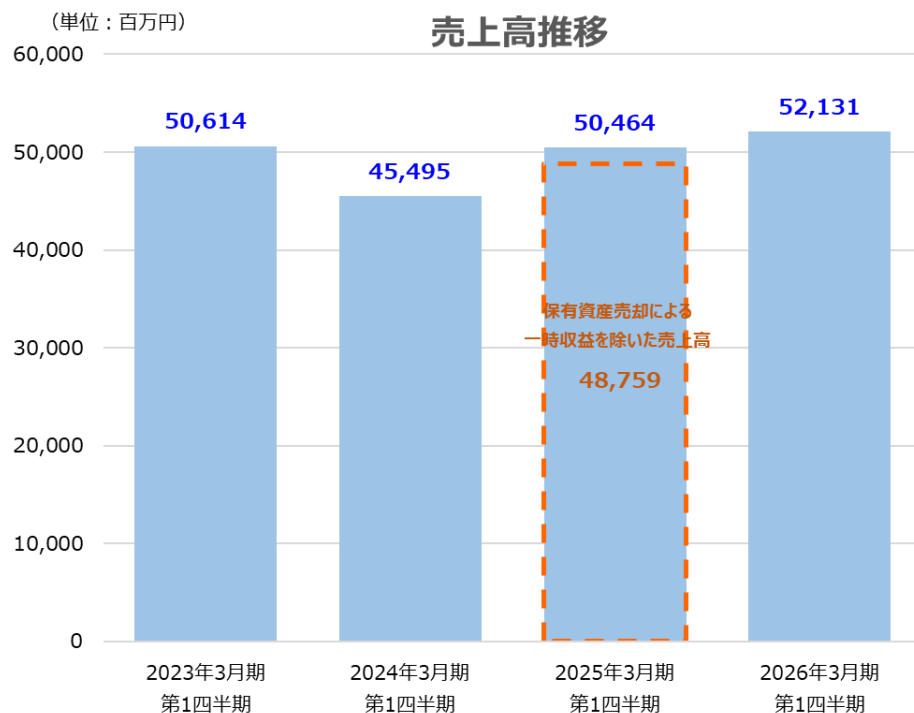
第1四半期（4月～6月）連結業績推移グラフ

期初想定通りに前年同期比増収基調にてスタート
営業利益は期初予想通り減益も期初予想を超えて推移

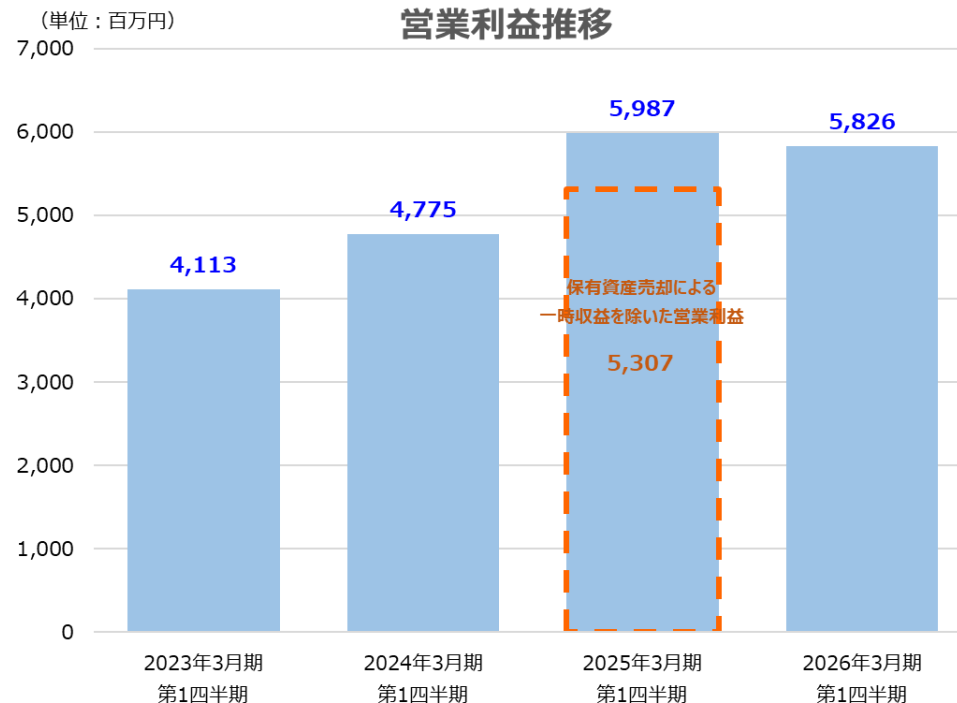
大幅増収となったマウス、ユニットコムを筆頭に、
国内外パソコン関連事業が全体の業績を牽引

円安基調継続や海外事業減益も国内PC事業
好調を受け、実質ベースで1Q営業利益は
1Qとしての過去最高を更新

売上高推移

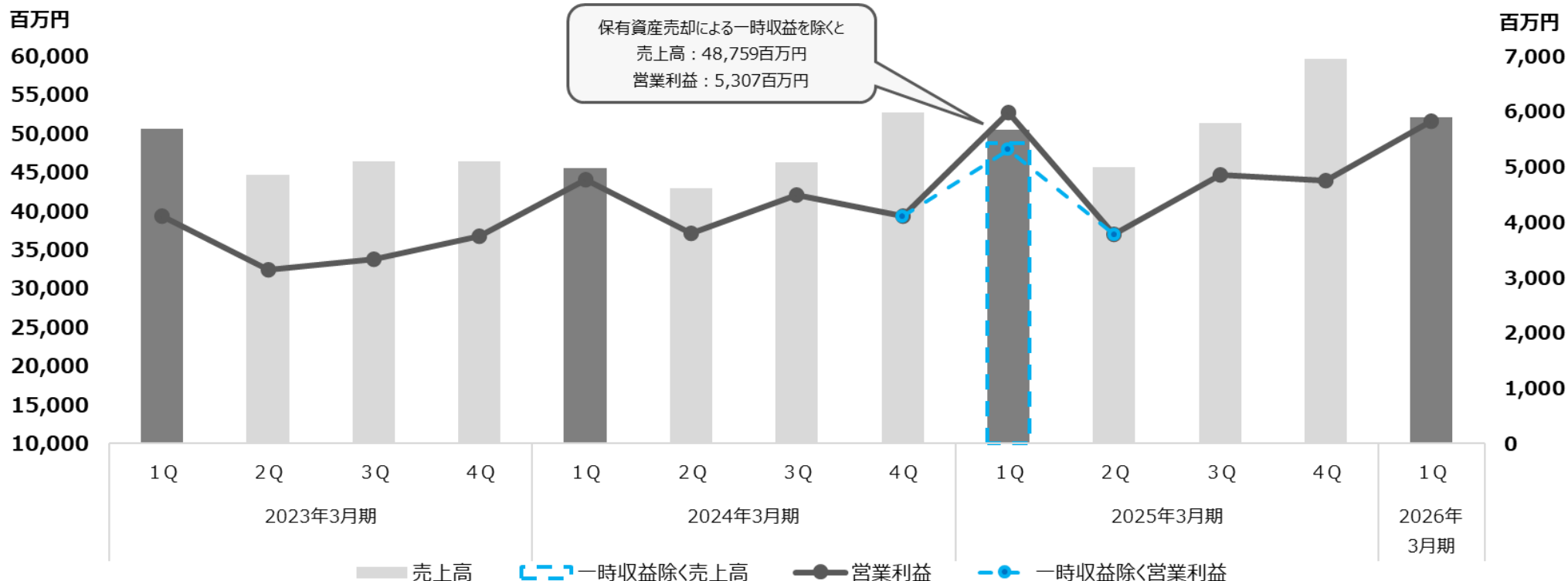


営業利益推移



第1四半期（4月～6月）連結業績推移

1Q売上高は500億円規模が定着。前年同期比増収となる
営業利益は四半期として50億円超えを再び達成。実質ベースでは1Qとして過去最高を達成



(百万円)	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	50,614	44,633	46,378	46,449	45,495	42,945	46,299	52,715	50,464	45,714	51,378	59,614	52,131
営業利益	4,113	3,136	3,328	3,740	4,775	3,807	4,498	4,111	5,987	3,776	4,860	4,753	5,826

※ 上記表の2025年3月期1Qには、保有資産売却による一時収益による影響を含んでおります。

第1四半期（4月～6月）上半期連結業績予想に対する達成率及び進捗

- 上半期業績に係る期初予想は、前年1Q計上の一時収益影響もあり14%程度の減益想定
- 1Qにおいては売上高及び各利益共に期初予想を上回り、計画達成に向け順調なスタートとなる

(百万円)	上半期連結業績予想に対する達成率		
	2026年3月期 第1四半期実績	2026年3月期 第2四半期累計期間 業績予想	達成率
売上高	52,131	99,000	52.7%
営業利益	5,826	8,400	69.4%
経常利益	6,073	8,400	72.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,202	5,900	71.2%

売上高は期初想定
通り前年同期比増
収でスタート

14%～18%程度の
減益想定であった
各利益は、期初予
想を上回り推移。
その結果、1Qは上
半期期初業績予想
に対して高い進捗率
となる

参考) 第1四半期 (4月～6月) 上半期連結業績予想に対する実績推移

【上半期 期初業績予想_前年同期実績比】

(百万円)	2026年3月期 第2四半期累計期間 業績予想	2025年3月期 第2四半期累計期間 実績	対比
売上高	99,000	96,178	102.9%
営業利益	8,400	9,763	86.0%
経常利益	8,400	10,223	82.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,900	7,263	81.2%

上半期については増収傾向継続を想定も、前年1Q計上の資産売却に伴う一時収益の影響及び海外事業の事業環境を鑑みて、
期初予想の段階では前年同期比減益を想定

【第1四半期実績_前年同期比】

売上高は期初想定通り増収基調で推移。各利益面は期初予想段階では14%～18%程度の減益を想定するも、国内PC事業の好調及び想定よりも高い利益率を受け、前年とほぼ同等の利益水準となり、期初予想を上回り推移

(百万円)	2026年3月期 第1四半期実績	2025年3月期 第1四半期実績	対比
売上高	52,131	50,464	103.3%
営業利益	5,826	5,987	97.3%
経常利益	6,073	5,999	101.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,202	4,303	97.7%

セグメント情報 第1四半期 4月～6月実績

□ パソコン関連事業

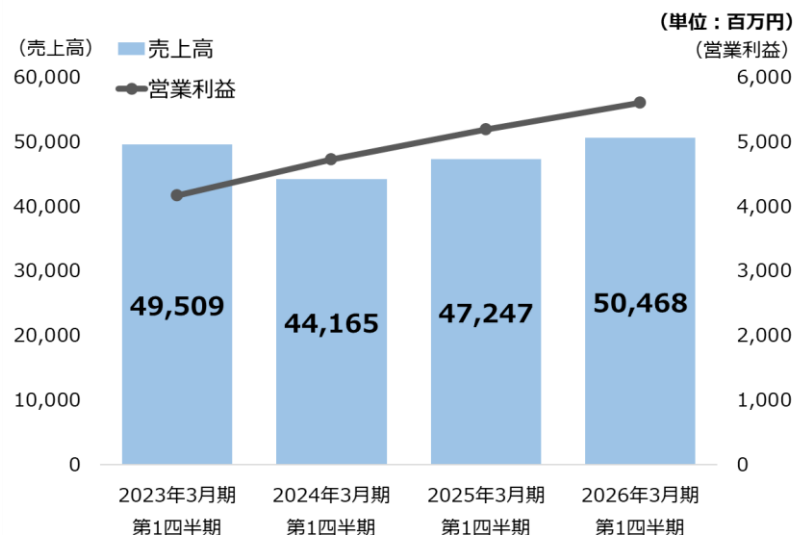


➤ 売上高 504億円（前年同期比6.8%増）

- 国内パソコン関連事業はマウス、ユニットコム、テックウインドの3社ともに前年同期比増収を達成
- 海外パソコン関連事業（1月～3月）は期初予想通りiiyama、R-Logicともに前年同期減収

➤ 営業利益 55億円（同8.0%増）

- 国内パソコン関連事業は3社ともに前年同期比増益を達成
- 海外パソコン事業は両社ともに前年同期比減益となるも、期初予想通りのトレンドにて推移



パソコン関連事業 (百万円)	2025年3月期 第1四半期		2026年3月期 第1四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	47,247	96.9%	50,468	96.8%	3,221	6.8%
営業利益	5,179	97.6%	5,592	96.0%	413	8.0%

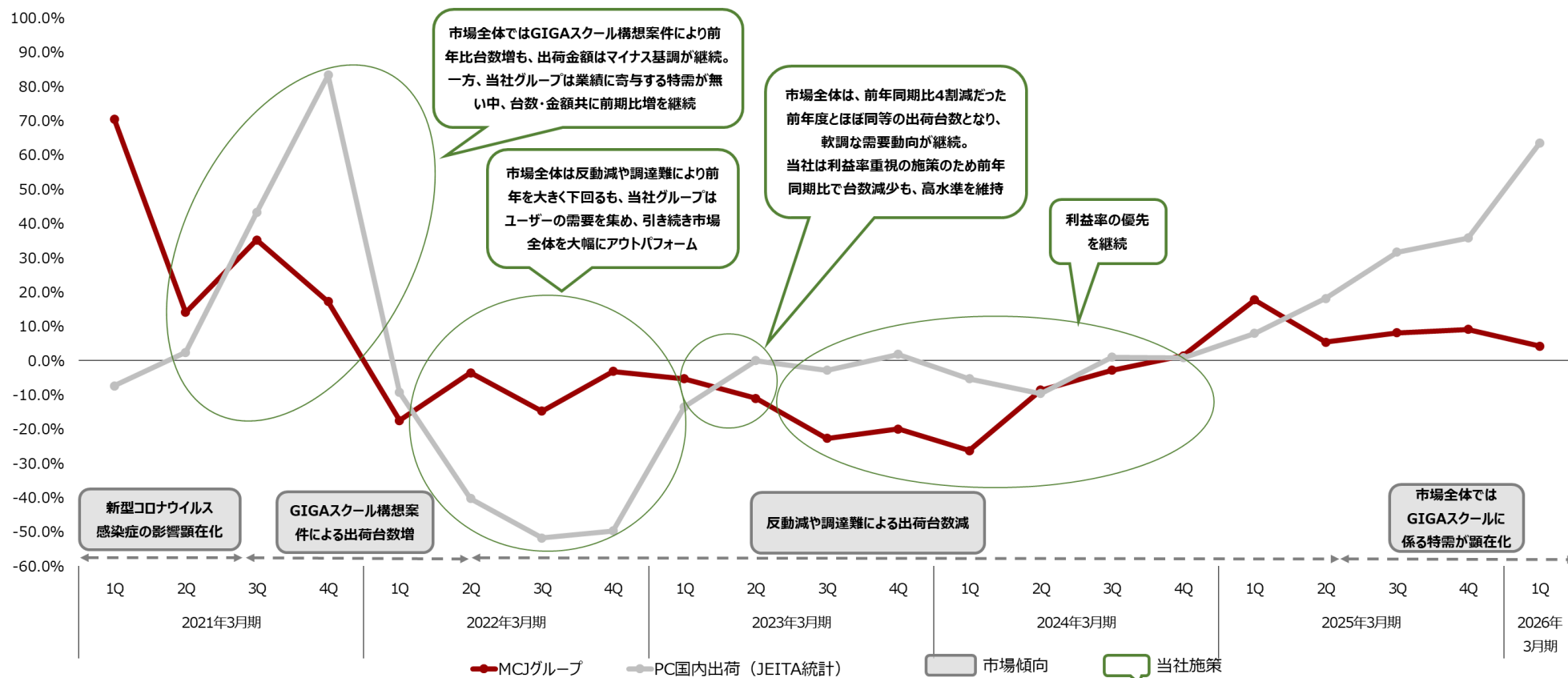
※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

※ 上記は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となります。

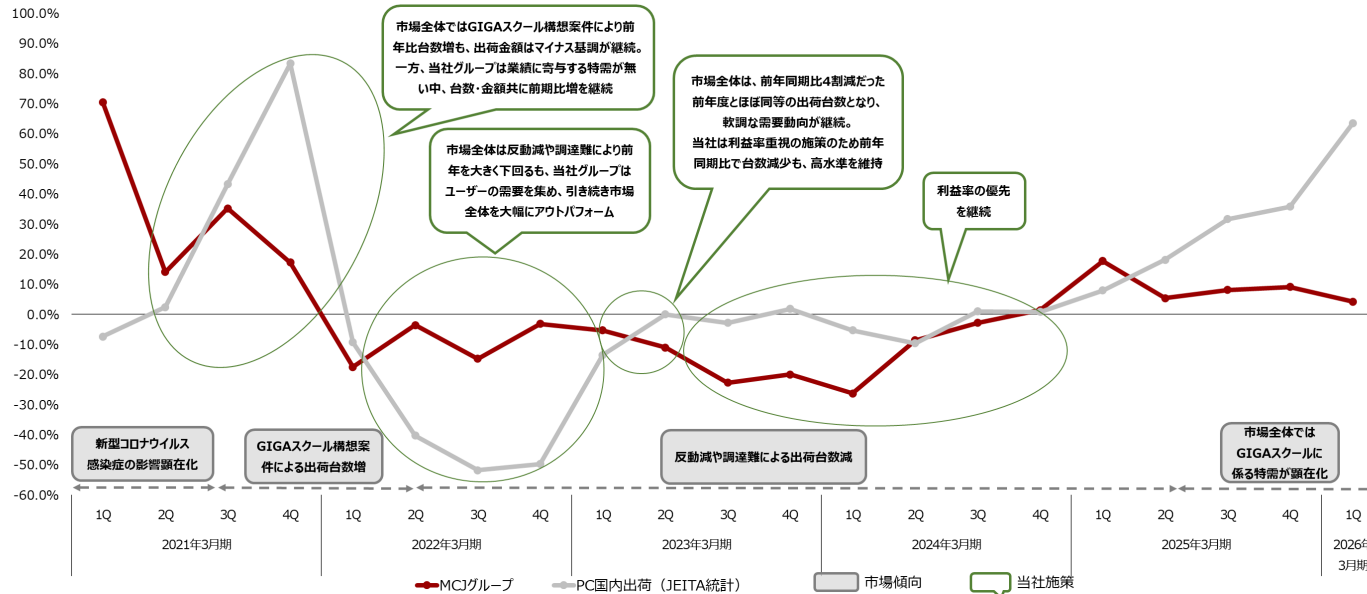
国内パソコン出荷台数増減率の推移（1/2）

国内PC市場全体はGIGAスクールに係る出荷を中心に好調を維持
当社グループはGIGAスクールへの積極関与せずとも前年同四半期比での出荷台数増が継続

- ※ 下記グラフは対前年同四半期での出荷台数の増減（例えば今期4Qと前期4Qとの比較）を示すものであり、経年での出荷台数又はその増減の推移を表すものではありません。
- ※ 当社グループの数値はマウスとユニットコムの出荷台数合算でグループ全体の平均的なトレンドを表しており、個別の会社の実際の出荷台数増減トレンドや強弱とは異なる可能性があります。



国内パソコン出荷台数増減率の推移（2/2）



GIGAスクール特需の影響が最小限の当社グループは、2023年3月期及び2024年3月期において、調達環境やユーザー需要を鑑みた利益重視施策により政策的に出荷台数を抑制するも、2021年3月期以降の台数減は市場対比でマイルドであり、前年同四半期比でのハードルが市場より高いものの、2024年3月期4Qより一貫して前年同四半期比での台数増が継続

今後も出荷台数増と収益性のバランスを重視し、継続性と安定性のある成長を目指す

国内PC市場はコロナ特需やGIGAスクール需要等により2021年3月期が直近のピーク。特需後以降はマイナスが続き2024年3月期までの3年間で市場規模が約半減

当期2025年3月期からは以下の要因によりユーザー需要が回復。期初想定通り下半期以降、前年同四半期比での台数増がより加速

1. サイクル的な買い替え需要（1Qより顕在化）
2. Windows10サポート終了に伴う買い替え需要
3. GIGAスクール更新需要（上記2とともに2Q後半より顕在化）

【参考】

市場全体の1Q前年同期比：163.4%

- ・うちモバイルノート(GIGA含む)：222.1%
- ・うち通常ノートPC：111.8%
- ・うちデスクトップPC：145.4%

セグメント情報 第1四半期 4月～6月実績

ロ 総合エンターテインメント事業：株式会社aprecio、株式会社MID

【ネットカフェ、24時間フィットネス、接骨院・整体院、ホテル運営事業】

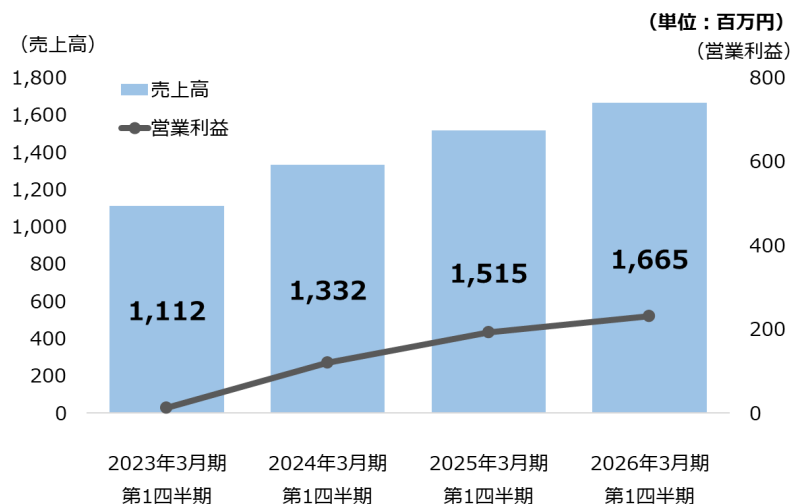


➤ 売上高 16.6億円（前年同期比9.9%増）

- 提供する各サービスにおいて利用客数の増加傾向が継続
- 24時間フィットネス事業が引き続き堅調に推移し、全体の増収を牽引

➤ 営業利益 2.3億円（同20.0%増）

- 主力事業であるネットカフェ事業は増益基調が継続
- 注力事業である24時間フィットネス事業も引き続き増益となり全体を牽引



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2025年3月期 第1四半期		2026年3月期 第1四半期		前期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	1,515	3.0%	1,665	3.2%	149	9.9%
営業利益	192	3.2%	231	4.0%	38	20.0%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

再掲) 2026年3月期 連結業績予想

増収基調は維持。利益面では海外事業減益想定及び一時収益の影響もあり減益想定

(百万円)	2026年3月期					
	第2四半期 累計期間計画	売上高比率	対前年同期 増減率	通期計画	売上高比率	対前年 増減率
売 上 高	99,000	100.0%	2.9%	208,900	100.0%	0.8%
営 業 利 益	8,400	8.5%	△14.0%	17,400	8.3%	△10.2%
経 常 利 益	8,400	8.5%	△17.8%	17,400	8.3%	△13.1%
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	5,900	6.0%	△18.8%	12,000	5.7%	△14.6%

- 国内パソコン事業の増収増益が、グループ全体の業績を牽引する見通し
- 欧州事業については事業環境リスクに加え、前年上半期のハードルの高さもあり減益想定
- 全般的な原材料調達リスク、人件費を含むコスト増を慎重に反映

通期連結業績予想に対する前提及び考え方

業績予想についての補足事項

業績予想策定に係る前提

■ 市場環境

- 国内においては引き続きWindows10サポート終了やサイクル的な買替え需要に加え、GIGAスクール更新需要あり、好調が継続の公算
- 欧州においてはマクロ的な事業環境不透明感が引き続き強く、モニタ市場全般も引き続き保守的な想定

■ その他

- 調達環境については2026年3月期も過度に期待せず、為替や一部部材調達環境に関して引き続き保守的な想定
- ベアアップ含む 人件費をはじめとした各種費用の増加を見込む

《2026年3月期連結業績予想策定の定性情報》

【パソコン事業】：国内PC事業が利益を牽引

- ✓ 国内事業においては引き続き市場全体で好調継続が見込まれる中、当社については成長市場への注力や顧客ベース拡大策の深堀により、前年同期比での増収増益を見込む
- ✓ 海外事業においては対ユーロでの円高や、不透明な経済動向などあるも売上高はほぼフラットを見込む。（現地通貨ベースでは増収）一方で、利益は前年上半期までのハードルの高さなどを踏まえ減益想定

【総合エンターテインメント事業】：事業成長を想定

- ✓ 各事業の好調継続により、増収増益を見込む

《数値に係る前提及び補足》

- ✓ 売上高は各事業共に増収を見込み、過去最高の更新を想定
- ✓ ただし、調達環境を保守的に見積もるほか（粗利率ほぼフラット）、ベースアップを含めた人件費増及び各種コスト増を各社共に見込む（販管費の大幅アップ）
- ✓ また、前期1Qに計上した一時収益（営業利益で約7億円相当）の剥落も考慮
- ✓ 以上の結果、前年同期比増収減益となり過去最高の売上高更新を想定する

株主還元 配当金について

2026年3月期の総還元性向は中計にて掲げる還元方針に則り、**1株当たり配当金額の増配**に加え、**自社株買いの実施**もあり、大幅な上昇を想定

	実績					予想
	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
年間1株当たり配当金	57円00銭					44円00銭
普通配当	31円00銭	32円00銭	33円00銭	37円00銭	43円00銭	
記念配当				20円00銭		
配当性向	46.2%					36.0%
普通配当	30.5%	33.9%	33.9%	30.0%	30.1%	
記念配当				16.2%		
総還元性向	30.5%	33.9%	33.9%	46.2%	35.7%	79.5%

□ 2026年3月期期末1株当たり配当金の予想額は44円00銭と想定

» 前期比増配の継続を優先：記念配当を除く普通配当では**13期連続での増配**を見込む

M

C

J

M

C

J

Appendix

商号	: 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)
設立	: 1998年8月
代表者	: 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二 代表取締役社長兼COO 安井 元康
資本金	: 3,868,102,900円
従業員数 (連結)	: 3,949人 ※うち臨時職員1,698人 (2025年3月末)
発行済株式数	: 101,774,700株 (同上)
証券コード	: 6670 (東京証券取引所スタンダード市場上場)

MCJグループ 主要子会社紹介



長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

取扱製品（ハード）

の拡充

コンテンツ・サービス分野

への事業領域の拡大

設定の背景/考え方

情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
 - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
 - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
 - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
 - » まずはスモールスタート

目標達成手段

- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
 - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
 - 当初はV B 投資 / 少額M&Aにて着手

経営上重視するKPI

重要視するKPI	実績数値及び目標数値		
	2023年3月期実績	2025年3月期実績	今回中期経営計画期間における目標
営業利益率 <営業利益/売上高>	7.5%	9.1%*	 7%以上 連結ベースで7%以上を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
ROIC <NOPAT/事業性投下資本>	18.8%	23.3%	 15%程度以上 資本コスト比スプレッドを確実に取る事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限値を設定
ROE <当期純利益/期中平均自己資本>	15.3%	16.7%	
配当性向 <1株当たり配当金/1株当たり当期純利益>	33.7%	30.1%	 30%以上 下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
DOE <ROE×配当性向>	5.2%	5.0%	 4.5%程度 成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく設定
総還元性向 <(配当金総額+自己株式取得額)/当期純利益>	33.7%	35.7%	 30～50%中心 80%上限目安 増配基調の維持を優先。想定ROE、株価水準等により自社株買いを実施

※ 2025年3月期の営業利益率は保有資産売却に係る一時収益を除いた数値となっております。

免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与えうる主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

< IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ
経営企画室 広報IR担当

Mail : ir-otoiawase@mcj.jp
HP : www.mcj.jp

